

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	神埼市立千代田東部小学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・『『夢に向かって、気づき・考え・行動する』児童の育成』を重点に置き、マナー教室等を実施することができた。その結果「自分でがんばることを決め、粘り強く取り組むことができる」と回答する児童の割合97.3%、「自分にはよいところがある」というアンケートで、1学期85%、2学期は91.2%であった。</p> <p>目標へと向かう向上心や自己肯定感の伸びがみられた。</p> <p>・コロナ禍という状況ではあったが、オンライン、規模縮小、内容変更等の工夫を試みながら、学校行事を実施することができた。これらの経験が、教科学習の授業だけでは得ることのできない達成感や協働性、責任感等を向上させることができた。</p> <p>・家庭学習の習慣化については、「家での勉強ができていない」児童は85%であった。保護者は77.2%が「できている」と答え、一定の成果が見られた。次年度も家庭での生活習慣と併せ、継続して保護者や児童にさらなる家庭学習の定着を働きかけていく。</p>
---------------	--

2 学校教育目標	<p>「渾身勉強」「白鳥蘆花に入る」 ～ 夢に向かって、気づき・考え・行動する児童の育成 ～</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>① 自分大すぎ（得意分野をもち、仲間と未来を語る心優しい子の育成）</p> <p>② 友達大すぎ（意欲的で、自信をもって自己表現できる子の育成）</p> <p>③ 学校大すぎ（試行錯誤し、根気強く挑戦できる子の育成）</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目			中間評価		5 最終評価		主な担当者			
評価項目	重点取組	成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価		最終評価				
				進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）		実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上（学びづくり）	○家庭学習の習慣化	○「学年にあった時間、家での勉強ができていない」と回答する児童75%以上	・毎学期「学習がんばろう週間」や「自主学習」の取組を行い、「学力向上だより」を発行し、家庭での学習時間と内容の確認を保護者等と話し、児童を褒めて意欲を高めていく。	A	・「学年にあった時間、家での勉強ができていない」と回答した児童91.3%で達成した。今後も学習時間を意識した取組の必要性を、児童に対し担任を中心に話して聞かせたり、「学力向上だより」や学年・学級通信等で家庭に啓発を続けたい。	A	・「学年にあった時間、家での勉強ができていない」と回答した児童92.2%で達成した。ただ、同じ項目について保護者は64.8%と回答しており、家庭学習が宿題や自主学習、読書等も含めてよいことを保護者が捉えていないことも考えられるので、保護者文書等で通知し、ほめて伸ばせるよう啓発していく。	A	・放課後児童クラブ内でも、子供たちは常にまじめに宿題に取り組むことができている。 ・親と子供の意識の違いはどうか。驚きました。 ・保護者は、宿題以外の学習を求めているのではないかと。	学力向上Co
	○児童の主体的な学びにつながる授業づくり	○業者市販テスト(国語・算数/知識・技能)において、正答率80%の児童の割合80%以上。 ○業者市販テスト(国語・算数/思考・判断・表現)において、正答率70%以上の児童の割合80%以上。	・振り返りの場の設定により、次時学習への意欲の喚起につなぐ。 ・タブレット等でのタブレット活用にて児童の関心を高める。 ・学習状況調査結果を全職員で分析し、2学期からの取組を共通理解し、共通実践を行う。	B	・業者市販テスト(国語・算数/知識・技能)において、正答率80%の児童の割合79.8%で達成が見られた。国語は80.7%で達成したが、算数が78.9%で達成しなかった。 ・業者市販テスト(国語・算数/思考・判断・表現)において、正答率70%以上の児童の割合84.6%で達成した。 ・学習状況調査分析結果を活用し、2学期への取組を全職員で共通理解した。毎月、進捗状況を振り返っていく。	A	・業者市販テスト(国語・算数/知識・技能)において、正答率80%の児童の割合85.8%で達成した。国語、算数ともに85.8%で前回を上回った。 ・業者市販テスト(国語・算数/思考・判断・表現)において、正答率70%以上の児童の割合84.8%で達成した。国語は94.1%、算数75.5%であるので、特に算数の習熟を図る。 ・標準学力調査分析結果を活用し、残り2か月の指導の徹底を全職員で共通理解する。進捗状況を振り返り、新学期への学力向上を図る。	A	・アンケートやテストの結果、学校だより等を読んでも、十分な教育ができていないと感じた。 ・授業を見て先生と子供の距離感が近く、先生の話を興味津々に聞いていた。タブレットを使う学習は、子供は大好きなようだった。 ・落ち着いて授業を受け、先生方の話に耳を傾けることが学力向上につながっていると思う。 ・少人数学級の特徴を生かして、さらなる向上を期待します。 ・スキルタイム等で繰り返し学習することは大切だと感じた。	学力向上Co
●心の教育（自分づくり）	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育に関する以下のアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒90%以上 ・自分やまわりの人の命を大切にしていると思う ・人には親切にしたいと思う	○道徳教育に関するアンケートを実施する。 ・道徳科の道徳づくりに関する校内研修等を実施する。	A	・道徳教育に関するアンケートにおいて「自分やまわりの人の命を大切にしていると思う」97%、「人には親切にしたいと思う」99%であった。今後も維持できるように道徳教育に取り組んでいく。 ・道徳科の授業づくりに関する研修を8月に実施した中で、全職員で共通理解したことを今後の実践に活かしていく。	A	・「自分やまわりの人の命を大切にしていると思う」は2%上昇し99%、「人には親切にしたいと思う」は99%と目標を達成した。継続して学校全体で道徳教育に取り組んでいく。 ・研修会で中心した事を授業等で実践に生かし、振り返り活動や道徳ノートの活用を中心に授業の改善や工夫したことを全職員で共有することができた。	A	・学校より、アンケート結果より、道徳を身に付ける教育が十分に行われていると感じる。 ・元気のない子に声を掛けたり、本当に優しい子が多いと感じる。上級生が下級生を気遣うなど感心させられている。 ・「この木の木カードからは、良いところや大切なことを見つけよう」	研究主任 自分づくり部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等についての組織的対応ができていないと回答した教員95%以上	○毎月1回行う「心アンケート」の結果や気になる子の情報を生徒指導連絡会で全職員で共有する。 ・SCや地域の方を含めた、年2回のいじめ防止対策委員会を行う。	A	・毎月「心アンケート」を行い全職員で共有することで、早期に対応することができている。気になる子の情報交換を行い、全職員で共有できている。 ・いじめ防止対策委員会を実施し、SCや地域の方とも共有することができている。	A	・職員が学校評価アンケートの結果は100%。2学期も毎月の心アンケート結果や気になる子の情報交換により、全職員で見守り対応することができた。 ・SCのアドバイスなどにより早期対応ができ、不登校の児童はいない。全児童が元気に登校することができている。	A	・先生方の配慮の成果が素晴らしいと思う。 ・つらいときに伝えられる友達づくりが大切と思う。「心の木」はいつでも見守り対応することができている。 ・先生が目が行き届き、みんなの笑顔が見え良い関係を築きやすいと思う。 ・SCのアドバイスを受けられることは良いことですね。	生徒指導主任 教育相談主任
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	○「昼休み外で元気に遊んでいる」と回答する児童の割合90%以上 ○スポーツチャレンジに全学級取り組む。	○晴れた日は外遊びを推奨し、保健・運動委員を中心に遊びの企画や運営、紹介を行う。 ・縦割り班を有効に活用し、体育的行事やスポーツチャレンジによる体づくりへの取組を行う。	B	・保健・運動委員会主催のイベントやなかなよしタイムを使っての縦割り遊びを実施することができた。しかし、「昼休み外で元気に遊んでいる」と答えた児童は87%で、目標をやや下回った。今後も遊びの企画や運営、スポーツチャレンジへの参加を呼びかけていく。	A	・どの学年もスポーツチャレンジに取り組むことができた。複数の種目で県上位の記録を出すことができた。次年度もスポーツチャレンジへの参加を呼びかけていきたい。しかし、「昼休み外で元気に遊んでいる」と答えた児童が95%で目標を下回っているため、目標を達成するための手立てを考えていかなければならない。	A	・素晴らしい取組だと思う。引き続きお願いしたい。 ・長綱等にチャレンジし、結果を出すことができ、それが自信に繋がって素晴らしいと思う。	体育主任
	●「望ましい生活習慣の形成」	○学年に応じた就寝時刻を守る児童の割合85%以上	・月1回の保健だよりや長期休業前の生活の話などを通して、基本的な生活習慣の大切さ(家庭での過ごし方)を啓発していく。	A	・保健だよりや長期休業前の話で啓発し、望ましい生活習慣が向上している。学校生活アンケートの「早く寝ることができている」と答えた児童は90.4%と1学期より増加していた。児童や保護者への意識は確実に定着している。今後も継続して「ほげんだより」で家庭へ啓発していく。	A	・保健だよりや長期休業前の話、学級指導で啓発し、望ましい生活習慣が向上している。学校生活アンケートの「早く寝ることができている」と答えた児童は90.4%と1学期より増加していた。児童や保護者への意識は確実に定着している。今後も継続して「ほげんだより」で家庭へ啓発していく。	A	・不登校児童が少ないのが一番だと思う。	生徒指導主任 養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・18:30までの全職員退勤と毎週金曜日の定時退勤日を周知徹底し、必ず18:00に言葉掛けを行う。	B	・毎週金曜日の定時退勤日は、概ね守ることができた。しかし平日の退勤時刻は、昨年度と比較して時間外勤務時間が減ったもの、もう少し状況だった。定時に帰る日を自主的に増やし、見通しをもって勤務するよう、さらなる言葉掛けを行っていく。	A	・毎週金曜日の定時退勤日は、18:30までに施設することが多かった。時間外平均40時間を超える職員が7月時点(5名)、12月時点(4名)と漸減した。更に具体的な対応(校務に係る部会の推進、学年グループの連携強化、行事の早めの提案等)を取っていく。	A	・職員間の協力ができていると感じる。 ・先生方の仕事は増えているのでは。2学期制はよかったです。	教頭
	○働きやすく、疲労蓄積の低減を目指した働き方改革の推進	○「疲労蓄積度自己診断チェックリスト」での「負担度 やや高い」職員の割合15%未満	○朝の健康状態に加え、退勤予定時刻を出勤時に記入し、見直しをもって業務に取り組み、効率化を図る。	B	・7月上旬に「疲労蓄積度チェック」を実施し、「やや高い」以上の職員が4名(24%)という結果だった。昨年度より減少しているため、さらに働きやすい環境づくりの推進や、養護教諭と連携して相談しやすい関係づくりに努めていく。	A	・7月上旬に「疲労蓄積度チェック」を実施し、「やや高い」以上の職員が1名(6%)だった。7月と比較すると、3名減少した。職員室の雰囲気もよく、見直しをもって気持ちよく仕事ができていると考える。今後も、教頭として養護教諭とともにライン・セルフケアの働きかけを継続して行っていく。	A	・どこの組織でも大事なことを思う。 ・職員室の雰囲気がとても良いのが伝わる。	教頭 養護教諭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）	具体的取組	進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価		意見や提言
				○地域の特色を生かした教育（仲間づくり）	○地域教材の活用（「次郎の里」教育の実践）	◎○「千代田の町や人が好き」と回答する児童95%以上	・次郎週間を設け、次郎に関する学習を各学級で行う。 ・下村湖人生家体験学習を、1～2学年実施する。	A		・児童アンケート「千代田の町や人が好き」は100%、保護者アンケート「地域を生かし連携した教育を行っている」も100%だった。地域の特色を生かした取組ができている。今後も総合や生活科で千代田町に触れる実践を行っていく。
○「白鳥蘆花に入る」の精神が生きるボランティア活動等の体験活動の充実	◎ボランティアパスポート1冊以上100% ◎進んで元気なあいさつをする児童90%以上	・ボランティア集会や放送で、ボランティアの内容や良さ等について伝える。 ・各学級でボランティアのめあてを決め、児童が自主的に取り組むようにする。	B		・ボランティア活動に自主的に取り組んでいる児童が多いが、パスポートに記入していない児童もいる。児童アンケート「3枚以上貼っている」は85%であり、前年度と同じ時期より4%増えた。今後は、ボランティア活動に積極的に取り組んでいる児童を紹介し、さらに活動への意欲を高める。	A	・あいさつや清掃活動、スリッパ並べ等、自主的に取り組んでいる児童が多かった。児童アンケートで「あいさつスリッパ」に取組んだ児童99%、花苗ボランティアを呼びかけるなど、たくさんの児童が参加してくれたなど、気持ちよくボランティアをする姿が多く見られた。全員がボランティアパスポート1冊終えることができた。	A	・登下校中の挨拶、手を振るなどの良いコミュニケーションが見られる。 ・自主的にトイレのスリッパを並べたり、周りのごみを掃除したりする姿が目にする。 ・地域でも、自然に挨拶ができる。横断してドライバーにも頭を下げてくれる家は素晴らしい。	仲間づくり部 ボランティア美化委員会

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・『『夢に向かって、気づき・考え・行動する』児童の育成』の目標達成に向け、学力向上対策、ボランティア活動の取組、マナー教室等を実施することができた。その結果「自らの夢や目標を実現に向けて努力する」児童99.1%、「自分にはよいところがある」児童98.3%というアンケート結果で、前年度よりも上回ることができた。向上心や自己肯定感の伸びがみられ、今後も維持できるように取組を継続していく。</p> <p>・家庭学習の習慣化については、「家での勉強ができていない」児童92.2%であった。次年度も家庭での生活習慣と併せ、継続して児童だけでなく保護者にも積極的に働きかけていく。また、一人一台端末の活用も、時間を掛けながら少しずつ定着してきた。今後も、授業中や授業外、家庭での効果的な活用方法を模索し、学習意欲、学力の向上へとつなげていく。</p>
----------------	--